

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼教之

いまさら聞けない 二松の歴史

今日10月10日は、本校の創立記念日。二松学舎だけが休業日となるので、某テーマパーク等に出かける人も多くなるはずでしたが、今年はスポーツの日と重なり、全国的に祝日。

ところで、本校の創立について、ルーツをどれだけ知っていますか？ 入学する前に学校説明会等で聞いたはずだけど… なんとなくは知っているけど… という人もいるかもしれませんね。

そこで、ちょっとおさらいしておきましょう。

まずは、学校創立者の三島中洲先生について。

生まれ：備中（びっちゅう）の国、現在の岡山県倉敷市

経歴：備中松山藩の儒学者である山田方谷（ほうこく）に学びました。

その後、明治政府の要請を受け、大審院（現在の最高裁判所）の判事などを歴任し、大正天皇の待講（教育掛）も努めました。

二松の教育：当時の日本は江戸から明治に移行したばかりでしたが、そうした中で、外国の考え方や文化を本当の意味で日本に取り入れるためには、まずは自国を知り、東洋の精神に対する理解も深めなければならないとして漢学を教授しました。

建学の精神：校舎の講堂に掲げられた『二松学舎 舎則』には、「己ヲ修メ、人ヲ治メ、一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」とあり、現代風に解釈すると、「自ら考え行動できる能力を鍛え、社会のために貢献する人物を養成する」という意味となります。

名前の由来：「二本の松」は「学問をする場所」の象徴で、三島先生は「漢学塾二松学舎」の創立当初、自宅を塾舎にしていたのですが、当時庭にあった二本の松から「二松学舎」と名付けたと自作の漢文の中に記しています。



今年で創立145周年（1877（明治10）年創立）を迎えますが、日本に数ある大学の中でも屈指の伝統校です。145周年ロゴマークは、リズムカルに未来へ飛躍していくことをイメージし、スクールカラーのグリーンとブルーをフレッシュな色味にし、新しいことへの挑戦心を表現しています。



本校の関係者・卒業生について、少なくともイラストにある人物は、よその人から聞かれてもしっかりと紹介・説明できるようにしましょう。左から

渋沢栄一：日本資本主義の父と言われ、近代化に尽力。

本校の3代目舎長（舎長＝組織の代表）。

嘉納治五郎：講道館柔道を創設し、日本のオリンピック参加の道を開拓。

（創立者 三島中洲師 校歌にも歌われています）

平塚らいてう（雷鳥）：婦人参政権獲得に奔走し、雑誌『青鞥（せいとう）』を発行。

夏目漱石：アンドロイドでもご存じですね。

『吾輩は猫である』でデビューした明治期の文豪。

イラスト以外にも

中江兆民：東洋のルソーと呼ばれた思想家。

犬養毅：元首相。政党内閣を組織するも5.15事件（1931年）で海軍将校らによって暗殺される。らが二松学舎で学んでいます。



本校のホームページに「二松学舎創立145周年特設サイト」のバナーを掲示しました。一度覗いてみてください。リンク先：[145周年 | 二松学舎大学 \(nishogakusha-u.ac.jp\)](https://www.nishogakusha-u.ac.jp)